

京都志（こころざし）塾等について

あしなが育英会は、すべての人が貧富の差を問わず高等教育を受けることが実現するように、という立場をとり、過去約 50 年間、日本の遺児たちを 11 万人、高校や大学などに進学させてきました。この間、寄付は累計 1100 億円（9800 万ドル、8400 万ユーロ）を達成しました。しかし、あしなが育英会では日本の遺児だけがよければいいという立場ではなく、地球上の貧しい国をなくすために何をすべきか、すべての人が大学受験をする権利、それが基本的人権と思うのですが、それを守るために、2014 年からアフリカの遺児を世界の一流大学に進学させる「アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想」事業を実施しています。

卒業すれば母国に帰り、母国の発展に貢献するニューリーダーを育成するのが、私たちのミッションです。

そうした中、あしなが育英会では、この度、京都市様、京都大学様のご理解のもと、京都市にアフリカ青少年のための教育支援機関「京都志塾」等を建設することを決定し、その建設候補地として、向島二の丸小学校跡地を活用させていただきたく、構想案を提出致します。

主な施設概要

京都志（こころざし）塾

志塾は、アフリカからそのまま世界の大学に留学するのではなく、1 年間全員がこの京都の塾に集まって、留学がより成果が上がるように、もう一度基礎的な準備や勉強をして、留学前の準備教育をするものです。

なおこの志塾には、アフリカ 49 か国代表 1 国 1 人、計 49 人（原則）と、日本のことを教えたり、国際的な友情を育むために、日本のあしなが育英会の遺児大学生 30 人ほど計 80 人が、一緒に学び寝食を共にする寄宿舍を包含します。

心（こころ）塾

心塾は、あしなが遺児学生が京都を中心に京阪神の大学へ通うための教育塾兼寄宿舍です。同様の施設が、既に神戸市と東京（日野市）にあります。学問に集中しながら 4 人部屋で仲間と過ごし、更に多様な文化や教養に触れることで、「暖かい心/広い視野/行動力/国際性」を身に付ける場とします。志塾のアフリカの若者と日常的に交流するとともに、餅つき大会など、地域住民の皆様との様々な交流も行いたいと考えています。

アフリカ博物館

居ながらにしてアフリカの人々の生活や文化諸々がわかる博物館をつくることにしています。京都大学の指導のもと、世界に類を見ない京大霊長類研究所が所蔵する文物の展示などを想定しています。

市民交流の場

地域住民の皆様とアフリカ各国の代表といえる志塾生、更には中国やインドの青少年等との交流の場となることを想定しています。

あしなが育英会と「あしなが運動」

あしなが運動の原点は、2つの痛ましい交通事故でした。1961（昭和36）年、新潟で岡嶋信治（本会名誉顧問）の姉と甥が酔っぱらいトラックにひき殺され、初の殺人罪が適用された交通事故。1963年には、玉井義臣（本会会長）の母が暴走車にはねられ、1か月あまり昏睡状態の末、亡くなりました。この2人が中心となり、1967年、交通事故遺児を励ます会が誕生。1969年には、交通遺児育英会が発足しました。

街頭募金や継続的に送金してくださるあしながさんのおかげで進学できた交通遺児が、「恩返し運動」として、1983年に災害遺児の奨学金制度をつくる運動が始まり、1988年に災害遺児奨学金制度が発足。さらに、進学した災害遺児が病氣遺児の奨学金制度づくりを呼びかけ、1993年に病氣遺児奨学金制度発足に合わせて、あしなが育英会が誕生しました。

1999年には、阪神・淡路大震災遺児の心のケアセンター「神戸レインボーハウス」が世界中からの支援で完成。コロンビア・トルコ・台湾の大震災遺児の支援を、神戸の震災遺児が恩返しにと呼びかけ、海外遺児の支援活動に発展しました。

2003年、アフリカ・ウガンダにエイズ遺児の心のケアのための「ウガンダレインボーハウス」が完成。2008年からは「読み、書き、計算」のテラコヤ教室も始まりました。

また、東京・日野市に「あしなが心塾レインボーハウス」が2006年に完成。180人収容の学生寮と全国の遺児の心のケアセンターとしてスタートしました。学生寮には、国内の遺児のみならず、海外の遺児も留学生活を送っています。

約50年間で、遺児11万人を高校大学に進学させ、1,100億円を超える募金を集めています。日本国内では、遺児家庭の強い要望をもとに、約50年間続いてきた従来の奨学金制度を見直し、一部給付型を上乗せした新しい奨学金を遺児家庭へ届けることになりました。

2012年、小説『あしながおじさん』出版100年を迎えました。今後は、アフリカの遺児の世界各地の大学への留学支援を行い、将来アフリカのために、また彼らの母国のさまざまな分野で活躍し、母国の発展を担うリーダー育成にも力を注ぎます。

アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想

「アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想」（以下 100 年構想）とは、世界最貧困国郡と言われているサブサハラ（サハラ砂漠以南）アフリカ 49 か国から毎年一人ずつ優秀な遺児を選抜し世界の大学に留学する機会を通して、母国のさまざまな分野で活躍し、母国の発展を担うリーダーを育成しようという構想です。重要なのは、修得した知識や経験を母国の発展やより多くの人々に還元するという「志」を持った人材を次世代に育成し続けることです。

片親もしくは両親を亡くし、優秀でありながら経済的に進学が困難な学生が、ウガンダ、セネガルにある学生寮「あしなが心塾」で行われる「勉強合宿」に参加。世界トップクラスの大学に進学し、修学に必要な奨学金と生活費が支給されます。その他にも卒業後に母国に帰って働くためのリーダー育成プログラムなどにも参加します。

心塾（こころじゅく）

あしなが育英会が奨学生に期待する人間像は、「温かい心」「広い視野」「行動力」「国際性」を兼ね備え、広く人類社会に貢献するボランティア精神に富んだ人材であり、そのための教育施設として学生寮「心塾」は存在します。現在、東京、神戸、アフリカ・ウガンダに設立しており、遺児教育の根幹を担っています。

学問に集中しながら、4 人部屋で仲間と過ごし、さらに多様な文化や教養に触れることで、「温かい心」「広い視野」「行動力」「国際性」を身につける場とします。

あしなが育英会 年表

1963 年	玉井義臣（現本会会長）の母が交通事故に遭い死亡。岡嶋さん、交通事故遺児を励ます会結成。
1963 年	第 1 回街頭募金（東京・数寄屋橋）、30 万円集める。
1969 年	財団法人交通遺児育英会、設立。
1970 年	秋田大学祭募金。39 大学 125 万円集まる。翌 71 年秋「第 1 回全国学生募金」始まる。 （現在のあしなが学生募金につながる。）
1973 年	大学奨学金制度スタート。
1978 年	交通遺児学生寮「心塾」（東京）、開塾。「心、それが人間を人間にする」が建塾の精神。
1979 年	どこかの誰かが遺児たちへそっとお金を送る「あしながさん寄付制度」開始。
1983 年	進学した交通遺児らの恩返し運動「災害遺児育英募金」を熊本市で開催。
1988 年	「災害遺児の高校進学をすすめる会」が奨学金を設立。
1989 年	災害遺児らが恩返し運動「病気遺児育英募金」を開始。
1990 年	玉井、朝日新聞社より「朝日社会福祉賞」受賞。 受賞理由「交通遺児を救済して社会福祉に貢献」と、心塾など独自の教育
1993 年	「災害遺児の会」と「病気遺児の会」が合併して、「あしなが育英会」誕生
1995 年	阪神・淡路大震災発生。6,000 人以上死者。遺児支援のために世界 150 か国以上から寄付。
1999 年	日本初、震災遺児の心のケアを行う「神戸レインボーハウス（虹の家）」（神戸市）を建設。
2000 年	「第 1 回国際的な遺児の連帯をすすめる交流会」（略称国遺連）を開く。世界中の遺児来日。
2002 年	国際 NGO「あしながウガンダ」開設。エイズ遺児に心のケアを届け、さらに識字教育を支援するための寺子屋教室も開設。国際的な遺児支援の展開。
2003 年	ウガンダレインボーハウス竣工式。ムセベニ大統領（ウガンダ）が名誉総裁。
2006 年	180 人収容の学生寮と遺児のケアセンター「あしなが心塾レインボーハウス」（東京）竣工。
2010 年	アフリカの遺児を世界各国の大学に進学させ、母国のためのリーダー育成を目指す「アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想」を発表
2011 年	東日本大震災・津波が発生。使途自由・返済不要の「特別一時給付金」交付を直ちに決定。 発生から 1 か月後、東北事務所を開設し、ローラー調査にて給付金の情報を届ける。
2012 年	マケレレ大学（ウガンダ）にて、玉井による基調講演。 「アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想」を公表。
2012 年	玉井、世界ファンレイジング大会で「最優秀個人大賞」を受賞。
2014 年	仙台・石巻・陸前高田レインボーハウス竣工式。
2014 年	「アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想」第 1 期生 10 名、ウガンダ心塾にて勉強合宿スタート。
2015 年	玉井、エレノア・ルーズベルト・ヴァルキル勲章を受章。人間の尊厳守る活動が評価された。
2015 年	「アフリカ 100 年構想」を応援する「第 1 回賢人達人総会」開催（ワシントン D.C.）
2016 年	ケニアで行われた第 6 回 TICAD（アフリカ開発会議）の日本政府主催イベントにて、安倍首相、ケニヤッタ大統領（ケニア）、その他アフリカ各国元首の前で活動紹介。
2017 年	「第 2 回賢人達人総会」開催（日本・東京）
2017 年	返済義務のない一部給付型奨学金制度の新設を公表。
2018 年	「第 3 回賢人達人総会」開催（日本・京都） 「志塾」の構想が議論の中心となり、賢人達人メンバーの承認をもらった。
2018 年	玉井、第 12 回後藤新平賞を受賞。受賞理由は、遺児支援活動を約 50 年間「継続」させた「実行の人」であり、また人づくりの場としての心塾を創設し、まさに「衛生（生を衛る）の道」という後藤新平の思想と行動にも通じるため。

心塾（東京）

右上：全体写真

中左：心塾講座①

中右：心塾講座②

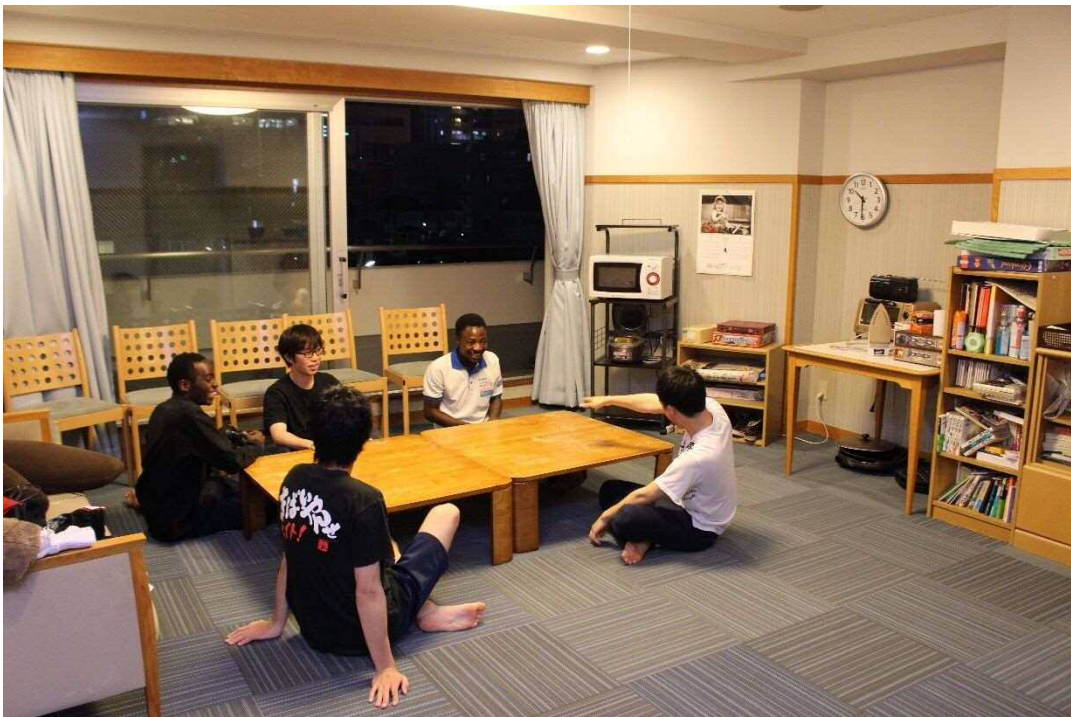
下：記念写真



神戸虹の家



左上：ホール
右上：外観
中右：食堂
下左：談話室



ウガンダ心塾



上：外観

中左：教室

中右：校舎内

下：中庭

